

『アメリカ史研究』第35号 特集原稿の募集

『アメリカ史研究』第35号(2012年刊行)の特集原稿を、下記の要領にて募集致します。ふるってご投稿下さい。

1. 投稿資格

日本アメリカ史学会の会員

2. 制限枚数

本文・脚注ともに1ページ43字×38行で17ページまで 注・図表を含む(厳守)
(英数字は2文字で、かな1文字と数える。)

3. 期限

投稿申し込み 2011年12月17日(土) 必着

*投稿申し込みにあたっては、問題設定および論の構成、主な史料、研究史を必ず含む形で、全体で1200字~2000字の要旨をまとめてください。

完成原稿の提出 2012年3月3日(土) 必着

*期限直前に辞退をすることがないように、原稿完成の明確な見通しのもとに慎重に申し込みをして下さい。

4. 注意事項

①投稿申し込みの際には、原稿の題目・要旨、投稿者の氏名・所属・連絡先(住所・電話番号・メールアドレス)を明記してください。申し込みは、下記のアドレスにてメールで受け付けます(郵送でも可)。投稿申し込みを受け付けた後、編集委員会から確認のメールをお送りします。

編集委員会Eメールアドレス: editors@jaah.jp

郵送先: 〒186-8601 国立市中2-1

一橋大学歴史共同研究室気付 日本アメリカ史学会事務局

②完成原稿は、編集委員会が審査し、その結果をすみやかに投稿者に通知します。原稿は横書きとし、印刷したものを1部提出すると同時に、メール添付によりMSワードあるいはPDF形式のファイルの形で提出してください。

③完成原稿の提出についての詳細は、申し込み受け付け時に連絡します。フォーマット等に関しては、日本アメリカ史学会ホームページに掲載の執筆要項にしたがってください。

5. 特集のタイトルと趣旨

20世紀アメリカにおける「危機」

9/11から10年、アメリカはさまざまな「危機」を抱え続けています。「テロとの戦い」に終わりが見えないという外患だけではなく、金融危機と景気の後退・低迷は多くの人々を苦しめています。不安や不満がムスリム嫌悪や移民叩きという形で噴出し、経済と生活を安定させようとする政策を「社会主義的」「非アメリカ的」と排撃する勢力が台頭するなど、内憂にも事欠きません。

こうした「危機」の本質を見極め、それがどの程度「新しい」現象であるかを判断するには、歴史に学ぶ必要があることは言を俟ちません。アメリカは、国際関係上/国内政治経済上、どのような危機に直面し、それにどのように対処してきたのか。

さらに、何が本当に「危機」なのかを考えるにあたっては、国民各層の「危機意識」を検証することも重要です。どのような人々が、どのような現象のどのような側面を取り上げ、それがいかなる意味で「アメリカ」への脅威であると語ってきたのか。それに対して、誰が・どのように反応したのか。

このような問題関心から、『アメリカ史研究』第35号(2012年)では、20世紀アメリカにおける「危機」というテーマで特集を組みます。移民の大量流入、大恐慌、冷戦、人種差別と不寛容など、対象とする時期やトピックは多岐に渡ることが予想されます。しかし、いずれの場合でも、危機(意識)とそれへの対応からアメリカのあり方を問い直し、現状の危機をふまえてつその歴史的な文脈を再考する論文が投稿されることを期待します。